

平成25年度大阪連続講座

織田作之助生誕100周年記念

大阪の文学

2013年は大阪を代表する作家織田作之助の生誕100周年にあたります。彼に敬愛の念をこめて、近世から現在までの大阪の文学をコンセプトに、大阪の文学にゆかりの人物・事跡などを考察する連続講座を開催します。



昭和15年 大阪を歩く織田作之助

7/ 6(土) 第1回 近代大阪の文学と(大)大阪

講師：三島佑一氏 (四天王寺大学名誉教授・船場大阪を語る会会長)

7/13(土) 第2回 上方落語と上方SF

講師：田中啓文氏 (作家)

7/20(土) 第3回 上田秋成が大坂で知り合った人々

講師：飯倉洋一氏 (大阪大学大学院文学研究科教授)

7/27(土) 第4回 トークライブ織田作之助と大阪の文学シーン

講師：玄月氏 (作家) 吉村萬壺氏 (作家)

津村記久子氏 (作家) 金秀吉氏 (映画監督)

コーディネーター：高橋俊郎 (大阪市立中央図書館副館長)



織田作之助初の単行本『夫婦善哉』と絶筆となった評論集『可能性の文学』

◆時間：午後2時～4時 (開場午後1時30分)

◆定員：300名 (当日先着順※) ◆入場無料
※第4回(7/27)のみ、当日正午より階エントランスにて整理券を配布します

◆会場：大阪市立中央図書館 5階大会議室

◆主催：大阪市立中央図書館 電話06-6539-3302

関連企画

3階ケース展示「生誕100周年記念 織田作之助」6/21(金)～7/31(水)

小説『夫婦善哉』で広く世に知られる織田作之助(1913-1947)。彼が生まれて今年でちょうど100年となります。大阪府立中之島図書館には、織田作之助の実姉・竹中タツさんより寄贈された織田作之助の旧蔵資料、書簡、草稿など約1,500点の資料をまとめた「織田文庫」があります。この大阪府立中之島図書館の「織田文庫」収蔵図書、雑誌、草稿や書簡を中心に、織田作之助に関する展示を行ないます。

主催：大阪市立中央図書館 協力：大阪府立中之島図書館

WEBギャラリー「織田作之助が愛した大阪」7/1(月)～9/30(月)

大阪市立図書館イメージ情報データベースの中から、文学ゆかりの大阪名所をご紹介します。

大阪市立図書館ホームページにて公開!

第1回 7/6(土) 講演会 近代大阪の文学と(大)大阪

大阪を嫌って大阪のことを書くのを避けた川端康成と梶井基次郎、大阪を熱愛して大阪を書いた織田作之助、幼時に大阪に来た宇野浩二、東京から来て船場を崇拜憧れて船場を書いた谷崎潤一郎、逆に船場に生まれ育ったゆえに船場の粗(アラ)を書いた山崎豊子。近代から現代の大阪ゆかりの作家についてお話していただきます。

みしまゆういち

三島佑一氏 (四天王寺大学名誉教授・船場大阪を語る会会長)

1928年、船場道修町の生業問屋に生まれる。京都大学文学部国文科卒業。日本ペンクラブ・四季派学会・関西詩人協会会員。著書に、『大阪オーラ-日本を予見する日本のハート』(和泉書院、2010)、『谷崎潤一郎と大阪』(和泉書院、2003)、『あの日は再び帰らず』(鳥影社、2006)など。

第2回 7/13(土) 講演会 上方落語と上方SF

関西、とくに大阪はSF作家の宝庫であり、小松左京、筒井康隆、眉村卓、かんべむさし、堀晃、大原まり子、北野勇作、小林泰三、牧野修などの才能が関西圏から生まれています。これはいったいなぜなのか。そのあたりを上方文学や上方落語との関わりの中から検討を試みます。

たなかひろふみ

田中啓文氏(作家)

1993年、短編「落下する緑」が、鮎川哲也編の公募アンソロジー『本格推理』(光文社文庫)に入選(本作は『落下する緑』(創元推理文庫)に収録)。『凶の剣士』で第2回ファンタジーロマン大賞に佳作入賞。作家としてデビュー。2009年短編『洗い夢』(連作短篇集『辛い船』[創元クライム・クラブ]所収)で第62回日本推理作家協会賞短編部門を受賞。デビュー以降、ミステリ・SF・ホラーなど様々なジャンルの作品を発表している。また落語に造詣が深く、創作落語や落語小説も手がける。

第3回 7/20(土) 講演会 上田秋成が大坂で知り合った人々

怪談『雨月物語』で有名な上田秋成は大坂生まれの文人です。孤独で狷介(けんかい)なイメージがありますが、実は多くの交友を持ち、それらの人々と文学で繋がっていました。秋成が大坂で知り合った人々一妻のたま、師の加藤宇万伎(うまき)、友人の木村兼葎堂(けんかどう)、そして懐徳堂の学者中井竹山・履軒兄弟との文学的交流を紹介します。

いいくらよういち

飯倉洋一氏(大阪大学大学院文学研究科教授)

1956年、大分県生まれ。1985年九州大学大学院文学研究科博士課程中退。文学博士(九州大学、1988年)。九州大学助手、山口大学専任講師・助教授・同教授、大阪大学助教授を経て、2004年4月より現職。日本近世文学専攻。専門分野は、上田秋成の思想と表現についての研究。近世中期の散文、とくに奇談・談義本・初期読本についての研究。近世期の和文についての研究。近世京都文壇の研究など。

第4回 7/27(土) トークライブ織田作之助と大阪の文学シーン

※第4回(7/27)のみ、当日正午より1階エントランスにて整理券を配布します

大阪在住の芥川賞作家3名と音楽劇「ザ・オダサク」の脚本家によるトークライブ。織田作之助の生誕100年を迎え、その「可能性の文学」と大阪へのこだわりを糸口に、現在の大阪の文学状況について、大いに語り合います。

げんげつ

玄月氏(作家)

1965年、大阪市生まれ。大阪市立南高等学校卒業後、自営業を営みつつ大阪文学学校にて同人を結成し、文学誌を刊行。「舞台役者の孤独」が1998年下半年期同人雑誌優秀作として「文学界」に掲載される。「おっぱい」が第121回芥川賞候補作となり、2000年に『藤の棲みか』で第122回芥川賞受賞。著書に『藤の棲みか』『悪い噂』『おしゃべりな犬』『寂夜』『異物』『春風』『狂響記』など多数。2011年に南船場に文学パー「リスール」を開店。織田作之助賞大賞選考委員。

よしむらまんいち

吉村萬彦氏(作家)

1961年、愛媛県松山市生まれ、大阪育ち。京都教育大学卒、元大阪府立特別支援学校教諭。2001年に「クチュクチュバーン」で第92回文学界新人賞、2003年に「ハリガネムシ」で第129回芥川賞を受賞。著作に『バースト・ゾーン』(早川書房、2005)、『独居45』(文芸春秋、2009)、『ヤイトスエド』(講談社、2009)などがある。2010年より織田作之助賞青春賞選考委員。

つむらまくこ

津村記久子氏(作家)

1978年、大阪市生まれ。大谷大学文学部国際文化学科卒。地質調査の会社に勤めながら、執筆活動を続け、2005年に第21回太宰治賞を受賞。同作を改題した「君は永遠にそいつらより若い」でデビュー。2008年に第30回野間文芸新人賞、同年、咲くやこの花賞を文芸その他部門で受賞。2009年に「ポストスライムの舟」で第140回芥川賞、2011年「ワーカース・ダイジェスト」で第28回織田作之助賞、2013年「給水塔と亀」で第39回川端康成文学賞を受賞。

きむすぎる

金秀吉氏(映画監督・脚本家)

1961年、大阪市生まれ。横浜放送映画専門学院(現日本映画学校)在学中に「潤の街」のシナリオで城戸賞受賞。1985年に「君は裸足の神を見たか」で監督デビュー。主な監督作品に「あす」・「千の風になって」、脚本作品に「橋のない川」・「ボクサジョー」などがある。1991年に第8回大阪市咲くやこの花賞受賞。2013年5~6月上演の音楽劇「ザ・オダサク」で脚本を担当。大阪芸術大学芸術学部映像学科及び大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科客員教授。

コーディネーター: ^{たかはし としろう} **高橋 俊郎(当館副館長)**

【主催・お問い合わせ】 大阪市立中央図書館 利用サービス担当
〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2
でんわ 06-6539-3302
http://www.oml.city.osaka.jp



地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線西長堀駅7号出口すぐ